

25 市町等の主な課題と対応策

※ () 内は市町・団体における課題への対応状況等

【1 市町社会教育費の現状】

- ・ 施設の老朽化に伴う管理費、修繕費等の予算確保が厳しくなっている（修繕費等は計画的に優先的なものから行い、職員で対応できるもの対応する等）
- ・ 財政的に厳しく一つ一つの事業に対する事業費を十分確保することが難しい（事業実施に当たり、講師等に職員を活用したり、他の部署との共催で開催するなど、少しでも予算削減できるような方法をとっている）

【2 市町社会教育関係職員の現状】

- ・ 社会教育主事の人材確保（社会教育士としての称号付与について、教育委員会内の職員だけでなく、市長（町長）部局の職員にも募集をかけることとした【研修旅費についても職員研修費で賄うこととしている】）

【3 市町社会教育委員の現状】

- ・ 委員会の形骸化（視察研修予算の計上及び委員会協議内容の検討）
- ・ 少子高齢化に伴う公民館活動や地域連携、文化の振興や生涯学習講座などの諸活動の停滞（地域のニーズに合った学習と活動の場を確保し、互いに支えあうコミュニティづくりについて検討協議していく）
- ・ 委員に各分野の代表（会長）を委嘱しているが、各団体の役員任期が1年から2年となっているため、十分に事業を理解できないまま委員交代となっている（委員会時は質疑応答の時間を十分にとっている）

【4 ボランティアバンク（ボランティア支援センター等）設置状況】

- ・ ボランティア育成事業において、点訳や音訳ボランティア養成講座の受講人数が他の講座に比べて毎年少ない（市町だよりを含め、広報誌やSNS等により情報を発信している）

【6 公民館施設・体制の現状】

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた事業ができなかった（貸館について、3密回避や手洗い消毒の徹底などを実施）
- ・ 無人館であるため、地域とのつながりがつくりにくい（他の部署や他団体と連携しながら事業を実施している）
- ・ 公民館職員は兼務であるため、主催事業や講座の開催ができにくい
- ・ 施設の老朽化（施設の統合や移設をふまえて検討している）
- ・ 社会教育主事有資格者が少ない（R4年度において社会教育主事講習を受講予定）

【7 公民館利用状況の現状】

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されており、活動休止になった団体もある（感染予防対策を十分に行い、できる限り施設利用ができるようにしている）（活動休止

の団体が再開できるきっかけづくりとして、公民館講座や行事を状況に応じて開催していく予定)

【8 青年を対象とした学級・講座の現状】

- ・ 独自の開催が難しい（他団体が開催する学習会への参画）

【9 女性（婦人）を対象とした学級・講座の現状】

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集会等が実施できなかった
- ・ 女性団体の組織の高齢化、役員が中心の活動となってしまう（役員外も参加でき、活動の活性化となるような研修を計画している）

【10 成人を対象とした学級・講座の現状】

- ・ 参加者が固定化している（常に最新的话题を提供し、受講者が自ら学習する契機となる講座を目指している）

【11 家庭教育に関する講座の現状】

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業の実施が困難になっている（感染症対策の実施、開催規模の縮小、開催の中止）

【12 高齢者を対象とした学級・講座の現状】

- ・ コロナ渦の中で、感染症対策を行いながら、いかに高齢者のニーズにあった企画を行っていくか（例年より広い空間を使い、健康体操や講演を行った）（高齢者教室に協力いただいている老人会の組織の方にヒアリングを行い、要望があった講師に講演を依頼した）
- ・ 事業内容のマンネリ化及び参加者の固定化（新しい軽スポーツ種目の体験会を実施）

【13 青少年の地域活動の現状】

- ・ 県内・県外を問わず、バス移動が伴えば「3密」回避が困難である
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業の実施が困難になっている（「3密」対策・手指消毒・検温を行いながら事業を運営している）

【14 子ども会の現状】

- ・ 子どもの減少（近隣児童・生徒への参加の呼び掛け）
- ・ 加入団体及び加入者の減少【新型コロナの影響も含む】（各地区への声掛け）

【15 目的少年団体の現状】

- ・ ブラウニー・ジュニア部門のスカウト数の減少（体験集会を地区ごとで開催）
- ・ 指導者不足（昨年度は保護者の方やスカウト経験がある会員が講習会を受講しており、今後指導者として活躍してくれることを期待している）

【17 婦人団体の現状】

- ・ 会員の高齢化と会員数の減少、新規加入者の不足（関係諸団体や関連機関との協力を図り、活動の継続や後継者の育成に努める）（日赤活動に参加し、婦人会から離れている地域に集金のお手伝い、声掛けをしている）（事業内容の見直しや役割分担により負担軽減を行っている）
- ・ 全会員のスキルアップを目標とする研修内容とその持ち方（伝統と新しい文化との学びの場を持ち、魅力ある生き方を目指す婦人会活動を工夫する）
- ・ 学校や関係諸機関との連携の持ち方（子どもたちが地域の伝統文化にふれ、誇りをもって継承できるように、学校や地域との連携に努める）
- ・ 「連合」維持の困難性が年々複雑化している（人と人とのつながり、心と心の交流を大切に育みたい）
- ・ コロナ禍により、活動が制限される中、会員一同での交流はもとより活動の継続の難しさを感じている

【18 愛護班の現状】

- ・ コロナ禍で活動が制限された（「密にならない」を考えて行事を計画している）
- ・ 世帯数、児童数の減少に伴い、行事の運営が難しい（PTA活動と兼ねた取組）
- ・ 会員数が減少し、活動も縮小傾向にある（積極的な声掛けを推進し、組織体制の強化を図っている）
- ・ 組織の名簿等が整備されていない（会長・事務局長と密に連絡を取り合い、状況の把握に努めている）

【19 P T Aの現状】

（1）国立幼稚園

- ・ 子どもの減少とともに、PTA会員数も減少している
- ・ こども園に移行後にも本会に所属して活動を続けていくにはどうすればよいか（幼稚園・こども園の動向について関係機関との連携をとり情報収集に努めたい）

（2）県立学校

- ・ 高P連の役割の一つは、各学校のPTA会員の皆様に対して、全国の情報や研修の機会を提供し、そこで得た経験や研修会での親自らが学ぶ姿勢を示すことにより、子どもたちの成長の手助けとなるよう家庭環境の発展への一助となることを期待して開催しているが、研修会等への参加人数が伸び悩んでいる（研修会等への参加は、多くの会員の皆様が参加することにより、県単位での連携を深める場であることの有用性を説明してまいりたい）（今後は、今まで以上に様々な機会をとらえて高P連の役割と意義について粘り強く説明してまいりたい）

【22 県内公共図書館の現状】

- ・ 図書館利用者の増加（館外活動による読書の啓発【ブックトーク・ファミ読トーク等】）
- ・ 資料購入費等の図書館予算が減少する中、どのように図書館サービスの満足度を上げていくか（図書館や読書に興味を持ってもらうため、年齢層に応じた様々なイベントや行事を開催）
- ・ 予算の範囲内での新たな事業の掘り起こしや、既存の事業の見直しにどう取り組むか（常に市町民が図書館に求めている課題の掘り起こし、予算の範囲内で解決可能か判断して対

応) (他の図書館や関係機関等と連携し、市民が求める知識や情報を提供するよう努めている)

- ・ 施設の所蔵能力の上限を超過しているため、受入数と同程度以上の資料除籍が必要となり、その選定・実施作業が負担になっている

【23 生涯学習振興計画等の現状】

- ・ 少子高齢化に伴う公民館活動や地域連携、文化の振興や生涯学習講座などの諸活動の停滞
(市町民の交流を促進するために地域のニーズに合った学習と活動の場を確保し、互いに支えあうコミュニティづくりを目指している)

【24 障がい者の生涯学習の現状】

- ・ 障がい者の生涯学習が実施できていない (今後障がい者が参加できる事業を実施していく必要がある)